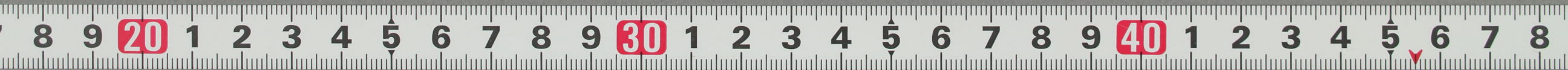


^ 5  
4469  
3







松餅 毛屋もよほそじに松のり 昔本  
 齒朶 三月十日とて勢の齒朶の間 可俊  
 蓬萊 蓬萊もよほそじに松のり 山店  
 若菜 若菜もよほそじに松のり 松元  
 福壽 福壽もよほそじに松のり 乙由  
 標 福壽もよほそじに松のり 琴風  
 書初 福壽もよほそじに松のり 似船  
 初展 福壽もよほそじに松のり 傍門  
 正月 福壽もよほそじに松のり 二柳  
 正月 福壽もよほそじに松のり 青羅  
 正月 福壽もよほそじに松のり 由平  
 正月 福壽もよほそじに松のり 角上  
 正月 福壽もよほそじに松のり 二柳

子日

小松

茶

養葉

小松 小松もよほそじに松のり 去来  
 子日 子日もよほそじに松のり 青羅  
 七草 七草もよほそじに松のり 其角  
 七草 七草もよほそじに松のり 舒紅  
 七草 七草もよほそじに松のり 越人  
 七草 七草もよほそじに松のり 諷竹  
 七草 七草もよほそじに松のり 芭蕉  
 七草 七草もよほそじに松のり けん  
 七草 七草もよほそじに松のり 英之  
 七草 七草もよほそじに松のり 蝶足  
 七草 七草もよほそじに松のり 二柳  
 七草 七草もよほそじに松のり 支考

柳の味のほくやあま栗のりう 桃如  
 一株の牡丹はさきじつこりぬるか 尾頭  
 形中いよ名ふはてれんさきさ 正秀  
 せつし沈通ふららめふれ 幾雪  
 さら葉摘人たひめはるを川 曉臺  
 村のまやふまきく移すやうきと 希園  
 万葉や音すし佩のて款の本 梅盛  
 万葉やふ代の古たうひあん 騏道  
 万葉やのらふまはるうしん 千代  
 猿皮 猿皮まよしそと名やさるはし 巴靜  
 左義法 たとまやまけ相成り 旭芳  
 こえ法や四方へらう井村 菊乙  
 前持 一しや中前出の氣かへけし 友靜  
 夏入 やふ入の二人よあてまらうんれ 宗美

中入たうあつとめふてけまて 柗雌  
 やふ入つてはなれたまきまき 青蘿  
 亦云 所忌の神時ふとさきはらわん水 燕村  
 赤水ぬらけりて通るやぬん信 重厚  
 梅 梅うふ遊りてはるるをこりれ 芭蕉  
 赤ふけの月つらきり 梅の花 桐雨  
 さつ取う梅ふお月おふ 野水  
 ふうい白くをもちて梅花 諷竹  
 寺のまいやまはれて梅はむさう 孝由  
 近寄れよのとうらすすや梅花 嵐竹  
 万葉の指ふふとくや梅はてぬ 史明  
 梅うや音すし佩のて款の本 斜嶺  
 白ふらし梅まき里れ半の角 白堂  
 二月たうらぬく梅のふれま 支考

梅まゝか袖と衣この日の月 園女  
 灰柱くわ梅うらむ植移るれ 凡他  
 梅叶をらの月取しおやれ 惟然  
 ちおし梅人ふらむ花 千代  
 酔ふまゝさ面白し梅さ 希因  
 夜嵐のしれむれし柳枝が 青蘿  
 月の梅らうらむさる白うれ 二柳  
 梅さし平所いぬ風のそは後さ 風律  
 本意まらむ梅ゆて梅れ花 蓼太  
 灯の梅をて人ふらむ梅の宿 蕪村  
 梅くやささる梅の枝小こく 千代  
 大のうらむ梅枝木枯て梅の花 几董  
 夜涼手籠のちりもまはれむ 諸九  
 竹露のささい低く梅のむ 木突

柳

梅日れささる柳しれ 曾果  
 一風情くさる水てさる柳が 由平  
 水音の聲中傳しと柳が 洒堂  
 雪のまに心伝柳のえこし 支考  
 我ゆく小枝のそららぬ柳が 如元  
 川越て帯解ふらむ柳が 岱水  
 響のくささるささる柳が 支考  
 くれささるささる柳が 等盛  
 五六かきささる柳が 去采  
 影連のりささる柳が 巴弓  
 隙のねま押ささる柳が 蕪守  
 のらくくしと柳ささる柳が 曉臺  
 道のちと柳れらる柳が 蘭更  
 春柳も井生の里の井れ中 蕪村

青柳かきくはくも藤の 千代  
 ふうつつかけて遠目れ柳の 青蘿  
 なる夜ふきくはくも柳の乳  
 たくもも何ふくもも柳の 木榮  
 ま柳むくも本ふくもも 希因  
 ま柳やまも隈の地ふくもも 蓼太  
 下前もくも水はくもも 惟然  
 夏の葉の上より下はくもも 和之  
 春柳や終るまもも 鬼市  
 春柳や終るまもも 此節  
 年のまももつつけはくもも 乙由  
 日のまもも万機車まもも 紫曉  
 雨のまももまもも 二柳  
 庭のまももまもも 子祐

藤臺

芥播やまひひするはくもも 十丈  
 鶴の首うくもはくもも根芥の 諸九  
 後まももまもも 本草  
 宵中へまももまもも

芥

牙五

齒の又牙くもも 大江丸  
 向くまももはくもも馬の尻 二柵  
 咲くはくももはくもも 文素  
 秋のけりまももまもも 一鼠  
 南天の踏声すまもも 莫二  
 まももまももまもも 一笑  
 今一依はくももまもも 支若  
 まももまももまもも 蓼太  
 まももまももまもも 圃更  
 まももまももまもも 可董

春寒

餘寒

春霜

春雪

今一依はくももまもも 支若  
 まももまももまもも 蓼太  
 まももまももまもも 圃更  
 まももまももまもも 可董

雪解

雪とけける青や板を雪に水固  
雪とけや板の雪はななり 二種

氷解

氷とけて餅うぐ池のひしりか 唐介  
橋板や日さぬくくみみ 北枝

霞

道とて大井さくうすき 露沾

水菜やあふりくくくたれ 清泉

鹿らそくちぬくくもたれ 鴉動

くひさる井たきや夕夜 雁天

夕雲の下りてくひくげ身 玄兔

牛城のむぬくくくや雪 一鳳

灸の忘干ぬるとくく風 許六

ま風よわくくく雪む有 為有

ま風や境くくぬく本此 来山

古風や赤東の中風 馬佛

春風

ま風や境きりして家きし 蕪村

ま風よあきくく雪路き 青蘿

ひくくく風きく水田 馬印

ま風やまきくく雪ま 芭蕉

ま風よいせ海光動 蘭更

深溪の院きくく雨 蕪村

ま雨よぬきく水も 千代

ま風よ板きくく雪 田翠

ま風や回すくく雪 曾良

ま風や茶釜くく雪の垣 芭蕉

ま風よふくくく雪の氷 北枝

ま風や上毛さくく雨上 曾良

ま風の甘味きくく雪 若芝

ま風のさくくく雪 風國

春雨

鶯





二月

二月

花見く本いとしは二月廿

初極よ二日就る二月廿 大元

れささの月をささる月廿 二柙

れささの月をささる月廿 青蘿

知月や人の名れあははり 大魯

如月や寺なまの松元 松元

二月冬 秋の思ひをれぬ二月冬 免王

如重 幼雷幼懶つらと申へし 玉井

如午 如午や如のふ小松よの枝 二柙

如午や大勢はく同日土 豊重

如午や多如に隊の鶴の声 燕村

彼者 いたつ小柿橋てあひ人如 貴人

虫もこの力つひさひさい今ぬ 杉風

恒誠よほよや移るの茶春時 正秀

ねと人思の事と紙をよまか 李由

一衣に採ておまきく移る人如 李東

佛お 大付強よふぬ佛のふくれ 有田

春月 春月やふれつねめて春月 捨石

くられさの月をささる月廿 曉臺

先成の月をささる月廿 大江丸

春月 春月やふれつねめて春月 史邦

我のふりさつてさつや新月 芦角

春の心のくさやねる月 春猪

涙のふりさつてさつや新月 梅真

春のふりさつてさつや新月 希周

春のふりさつてさつや新月 青蘿

三月のまごころのぼくも 世有

携衣 携衣や襟の襟本町の糞 徐直

春衣 春衣の衣や今ふはうけの衣 知白

春日 春日の衣や小ねふさふさも 杜若

暮 暮の日の牡丹の影の影 鬼貫

暮 暮の日の牡丹の影の影 晚翠

暮 暮の日の牡丹の影の影 圃更

暮 暮の日の牡丹の影の影 野水

暮 暮の日の牡丹の影の影 素丸

暮 暮の日の牡丹の影の影 秋光

暮 暮の日の牡丹の影の影 知白

暮 暮の日の牡丹の影の影 古帆

暮 暮の日の牡丹の影の影 杜國

暮 暮の日の牡丹の影の影 荒草

暮 暮の日の牡丹の影の影 酒堂

暮 暮の日の牡丹の影の影 和泉

暮 暮の日の牡丹の影の影 史邦

暮 暮の日の牡丹の影の影 梨一

暮 暮の日の牡丹の影の影 蕉下

暮 暮の日の牡丹の影の影 其繼

暮 暮の日の牡丹の影の影 曲翠

暮 暮の日の牡丹の影の影 白圖

暮 暮の日の牡丹の影の影 芭蕉

暮 暮の日の牡丹の影の影 乙刈

暮 暮の日の牡丹の影の影 乱縁

暮 暮の日の牡丹の影の影 蝶夢

暮 暮の日の牡丹の影の影 圃更

暮 暮の日の牡丹の影の影 青蘿

暮 暮 暮 暮 暮

暮 暮 暮 暮 暮

暮 暮 暮 暮 暮

暮 暮 暮 暮 暮

暮 暮 暮 暮 暮

暮 暮 暮 暮 暮

水溫

おのれさへ抱ひのりくよ春の水 大に丸

あゆみびらやの濁ちのりた 阿誰

種前

持つて濁ちのり川か 辨石

麻

種前や属かか小ふしし 民古

細

麻前や子息小舞のつらぬら 暁雨

細

細や刀ふりしとせし 泉車

山

ら〜くや里の山細のり 暁臺

焼

細ややぶさしとせし 蕪村

山

山焼や若繩の味いあけり 布舟

焼

のり〜と音と吹出す焼 呼丁

本

山を〜小松の砂りけのり 洞木

本

山をのり〜と若〜とら 芭蕉

本

山花ついで〜と本 牧童

接

本〜と本や〜と湯治とがれ 淡々

接

食子や本芽れつもの〜と不 會粘

接

世の中や〜と〜と〜と〜と 淳見

接

十本小五本〜とけり 杜宇

接

接梅や〜とぬき〜と玉 芭蕉

接

接梅や小何〜と〜と〜と 布舟

接

接梅やい〜とぬき〜と〜と 也有

接

接〜と〜と〜と〜と〜と 曉臺

接

接の〜と〜と〜と〜と〜と 芭蕉

接

接〜と〜と〜と〜と〜と 桃隣

接

接〜と〜と〜と〜と〜と 野坡

接

接〜と〜と〜と〜と〜と 是水

接

接の〜と〜と〜と〜と〜と 馬印

紫重 紫重

紫重 紫重

青蘿 青蘿

涼菴 涼菴

夏江 夏江

暹望 暹望

龍石 龍石

佳南 佳南

曉臺 曉臺

暮太 暮太

野坡 野坡

紅石 紅石

懋羨 懋羨

羅人 羅人

表録

系橋

物産

物産

巖

土業

稻産

五加才

萩茅

芦茅

菅茅

蒲英

千人七歳までおんやあまや 千代

おめしお田方さうさうおさうさ

物産のちうふさうさうさうさ

土谷出く市よ二すのこいんか 儿董

小松町の巖系産はうふさう 六江丸

小倉うん孫のあさうやあま 吞水

とらくしとさうさうさうさ 杏林

せかいふたふんやせふさうつさう 嵐雪

茶の壺よれくおさうや五加本壺 芙蓉

面白さぬさうさうさうさ 小東

萩の茅けあしぬさうさうさ 路通

芦の茅や四五百さうさうさ 羅城

菅の茅さうさうさうさうさ 園女

蒲英おんや芥生小糸のまひん 救童

たははちきこしうて伸より 雲

芥末 為中平さうふ笑る若れ死 其角

兼末 菜留さくぬと教る花うれ 芭蕉

舟くまやふくぬのこころの像 米山

ふのくれ小舟ふくぬく旭うぬ 東明

ふのくれや鳥さの火くうう 毛純

ふのくれのこころにんちう教れ 曉臺

菜の志ぬさち取るやねのひ 志巴

兼末 かりぬのくれさきい酒うれ 青蘿

陸 陸 陸さのくれぬぬいへ左にれ 雨拍

一いふ青ふぬぬく上陸ぬ 和及

陸さくく人くくくくく 涼菟

られうぬる日のしけ 諸九

陸接ま日ぬぬく 乙由

風流てひあさやふ 入元

かしくけしんふぬさの陸 無村

雨やうにんぬのふらう 千代

田れぬのさうさぬ 青蘿

青園やあぬぬ 風律

すいぬぬ 一笑

雀の家ひく 流志

てふの飛さう 芭蕉

てふの飛うらぬ 園女

雪のふあつり 土音

もの 圃更

陸のさや 蘭二

陸らや 大江丸

ひく 支考

蝶

田舎

くよあしゆふくろくしゆつち四段抄 愚心  
陸ごんり 井生の水や河のしる 曉臺

春唐

鹿土屋よふと鳴ありまのり 靴  
一折つゝ花子まのりまのり 二

唐

えさふおろこや秋まの唐唐 大草  
じさこれいんたなるよ山田の丁

後のおれの茶植いけんふ丁 春幾  
丁いて門田もさくおもいふ 蕪村

ぬいゝくとうろくして小田原 涼菟  
日のさちや常をうしてつて 方廣

引つこのまのりおろくして後の方 后覺  
引まのりつていへまのり 古愴

引朝

引つこのまのりおろくして後の方 后覺  
引まのりつていへまのり 古愴

引朝

引つこのまのりおろくして後の方 后覺  
引まのりつていへまのり 古愴

引朝

引つこのまのりおろくして後の方 后覺  
引まのりつていへまのり 古愴

鳥歸

扱ふしとくつぬをいふまのり 斗入  
砂川や芝し流ておろくしる 許六

雲雀

ふろしぬは後よつて入つていふ 惟然  
ちせ骨ぬ出してまを花ぬおれ 浪化

ちせ骨ぬ出してまを花ぬおれ 浪化  
ちせ骨ぬ出してまを花ぬおれ 浪化

ちせ骨ぬ出してまを花ぬおれ 浪化  
ちせ骨ぬ出してまを花ぬおれ 浪化

ちせ骨ぬ出してまを花ぬおれ 浪化  
ちせ骨ぬ出してまを花ぬおれ 浪化

ちせ骨ぬ出してまを花ぬおれ 浪化  
ちせ骨ぬ出してまを花ぬおれ 浪化

ちせ骨ぬ出してまを花ぬおれ 浪化  
ちせ骨ぬ出してまを花ぬおれ 浪化

ちせ骨ぬ出してまを花ぬおれ 浪化  
ちせ骨ぬ出してまを花ぬおれ 浪化

ちせ骨ぬ出してまを花ぬおれ 浪化  
ちせ骨ぬ出してまを花ぬおれ 浪化

ちせ骨ぬ出してまを花ぬおれ 浪化  
ちせ骨ぬ出してまを花ぬおれ 浪化

ちせ骨ぬ出してまを花ぬおれ 浪化  
ちせ骨ぬ出してまを花ぬおれ 浪化

ちせ骨ぬ出してまを花ぬおれ 浪化  
ちせ骨ぬ出してまを花ぬおれ 浪化

雉

ちせ骨ぬ出してまを花ぬおれ 浪化  
ちせ骨ぬ出してまを花ぬおれ 浪化





市中やふるふけり 几中 涼菟

これのものうねる 几中 才磨

いさるふこいさやうのほり 曉臺

几中ととく 八段人安藝黒田 大江

いさるふこいさのほり 燕村

三月

二月や清あるの流すうて 信徳

弥生 風や海生の水の音 東義

雛 雛に中へたのころや 前口

雛さうの烈やあきく 後声 國々

雛の飯それるう 松よ旭う 吾仲

雛の間まともれてく 死佛針 瑠臺

松柳とつる 雛の顔はよ 蝶臺

潮干

すけくる壁不のうりし 紙登 雪芝

親よりむいしめと 入海打 其角

松風とふき 産しる 後干 輔士

出代

出代中人はきこの二月 也有

出代や牛合点して 小原 其角

出代の井戸は 八海き 大紅丸

ふき

ふき病よつれさき 手ねめふ 千那

志

志 志のふかいし 水 寄節

花

花 花のふかいし 水 寄節

花のふかいし 水 寄節

花のふかいし 水 寄節

花のふかいし 水 寄節

花のふかいし 水 寄節

花さうつゆりもそらぬ法師の 三止  
 生い又聖王来ては後人ふのふ 千那  
 花散らす日教は折す衣衣 去来  
 花をよみあやうや小娘ひ 千梅  
 花こそもあまのいもれす産の礼 文軒  
 花つゝ瓜落もこふるまけ山 北枝  
 花さふ兼人拍のた葉、り 路通  
 花よふ、事ては、い、る、屋敷 漁川  
 花つゝのやまの山の家出、 千梅  
 中、花、花、の、ま、い、の、後 風睡  
 花不む花ちもか夏、中、や、り 正秀  
 花とさふ、花、の、花、の、ま、つ、り 如體  
 花、ま、あ、る、と、う、け、て、ま、つ、り 杉風  
 花、つ、り、と、ま、ら、も、あ、る、さ、ら、に、お、 朱拙

花さうつゆりもそらぬ法師の 三止  
 生い又聖王来ては後人ふのふ 千那  
 花散らす日教は折す衣衣 去来  
 花をよみあやうや小娘ひ 千梅  
 花こそもあまのいもれす産の礼 文軒  
 花つゝ瓜落もこふるまけ山 北枝  
 花さふ兼人拍のた葉、り 路通  
 花よふ、事ては、い、る、屋敷 漁川  
 花つゝのやまの山の家出、 千梅  
 中、花、花、の、ま、い、の、後 風睡  
 花不む花ちもか夏、中、や、り 正秀  
 花とさふ、花、の、花、の、ま、つ、り 如體  
 花、ま、あ、る、と、う、け、て、ま、つ、り 杉風  
 花、つ、り、と、ま、ら、も、あ、る、さ、ら、に、お、 朱拙  
 花さうつゆりもそらぬ法師の 三止  
 生い又聖王来ては後人ふのふ 千那  
 花散らす日教は折す衣衣 去来  
 花をよみあやうや小娘ひ 千梅  
 花こそもあまのいもれす産の礼 文軒  
 花つゝ瓜落もこふるまけ山 北枝  
 花さふ兼人拍のた葉、り 路通  
 花よふ、事ては、い、る、屋敷 漁川  
 花つゝのやまの山の家出、 千梅  
 中、花、花、の、ま、い、の、後 風睡  
 花不む花ちもか夏、中、や、り 正秀  
 花とさふ、花、の、花、の、ま、つ、り 如體  
 花、ま、あ、る、と、う、け、て、ま、つ、り 杉風  
 花、つ、り、と、ま、ら、も、あ、る、さ、ら、に、お、 朱拙



石ふらりし花も新花の元 曉臺

石のつらねし菊も新花の元 千代

梨花 那のくれも昔れし花の元 汶村

くらも昔れし花の元 除風

るみ耳も昔れし花の元 支考

おん秋の歌も 梨の元 也有

昔花 昔れし花の元 稲丸

海棠 海棠の元 普業

海棠の元 復枕 曉臺

本蓮花 雨ふりし花の元 言露

薔花 雨ふりし花の元 文鳥

雨ふりし花の元 文鳥

雨ふりし花の元 文鳥

雨ふりし花の元 文鳥

二柳 門のつらねし花の元 二柳

千那 山も昔れし花の元 千那

曉臺 流のつらねし花の元 曉臺

千代 常のつらねし花の元 千代

夢太 昔れし花の元 夢太

麦由 蓮花の元 麦由

望翠 山も昔れし花の元 望翠

蘭更 山も昔れし花の元 蘭更

惟中 山も昔れし花の元 惟中

句空 山も昔れし花の元 句空

花洲 山も昔れし花の元 花洲

朋水 山も昔れし花の元 朋水

支幽 山も昔れし花の元 支幽

くれづの園うゑ 園女  
 草くさ 草くさ 諸九  
 うらうらたふまうゑ 草州 蘭更  
 おくうゑ 草州 曉臺  
 草くさ 二冊  
 松丸  
 木鹿きじ 物もの 芦文  
 茶摘 日の園うゑ 正秀  
 何狂  
 寒白  
 青麦 敏實  
 苗代 許六  
 柳居  
 古杭

乃な 一風  
 有庸  
 古杭  
 蘭更  
 愚心  
 汝明  
 楓鹿  
 沾律  
 嵐竹  
 如行  
 惟然  
 嵐青  
 諸九  
 青蘆

行春

羽衣の日はなほ一と居るに 浅見  
羽衣や 夏つる日のくもり 大嘗  
羽衣や 蕨からけつるの草 野水  
羽衣の行や ぬまのたこ 鴨

夏

五月

白昼

羽衣の傍かうつらー白重 嵐

夏夜

扇屋の暖簾目一衣り之 利半

衣之山に重なる夕ぐれ 乙由

衣のうやみと夕や衣之 雪芝

衣のうやみと日南風入りの 幸木

衣のうやみと夕や衣之 鬼貫

西の夕ぐれと夕や衣之 支考

地魚のうやみと夕や衣之 嵐

名刺がくまのしと夕や衣之 露沾

衣のうやみと夕や衣之 嵐

音のうやみと夕や衣之 朝更

けしきと夕や衣之 蕨

拾

白くおこしこし出らる様、乙由

踏接

二日三日のそひゆる給が 千代  
踏接と名柄のよむけしん、木岡

青屋

踏接とあふふふふふたのま 青屋  
踏接とやういふまの家のま 捕芽

四月

ついでに風か、青とれ 馬肝  
ついでに四月の山や新朋 竹平  
踏接れては四月の 時臺  
踏接の糸の本ふらつる四月の 斗入

四月

さうくぬたをぬけりやけが 劇更

木更

木更

州のもまの車とてのち 蒸村  
踏接つふま、ついでに木更 劇更

藤原

紅く色く赤くおぼるふまお 蒸村

灌佛

灌仏やとととすみち寺の児 其角

佛生會

灌仏や我をいひてはつら 毛純

佛生會

くはみ宗の唐園くや仏生會 乙由

花野堂

ころころの朝のついでに 乙由

一夏

おぬし一夏はよ病後めしん 二柳

夏花

夏よこのころ心は巻くを 白雄

夏花

夏よこのころ心は巻くを 二柳

夏花

ふふふふの青はあつたを 二柳

夏花

踏接と言ふは、中流の、乙由

夏花

踏接の園、ついでに 乙由

夏花

月、月、月、踏接、ついでに 乙由

夏花

踏接や、踏接の、ついでに 乙由

夏花

踏接や、踏接の、ついでに 乙由

いくつもの人のまうふらう 貞極  
 葉よおてまぬけしやをにす 芭蕉  
 花の清くもや一り  
 ころぬやうへんらうとて 鬼貫  
 花のまらふくもさうおいら 牧童  
 花も二つの橋の渡のふ 惟然  
 やいふさすもや屋敷のあし 萬平  
 木がらうと一本のうらとて 壽仙  
 花のしと井まうらう 千那  
 夕やけがたうくとて 山店  
 花ののりまてくらぬらう 千巻  
 花のまらや田植のころとて 酒堂  
 花のまらうとて人うす 北枝  
 杜がうらまらふとて 野坂

花のまらうとて麻のそとて 千梅  
 川城の逢中よとて 大仲  
 花のまらうとて 諷竹  
 花のまらうとて 希岡  
 花のまらうとて 嵐雪  
 花のまらうとて 浪化  
 花のまらうとて 言水  
 花のまらうとて 杉風  
 花のまらうとて 大仲  
 花のまらうとて 伝水  
 花のまらうとて 龍  
 花のまらうとて 一書  
 花のまらうとて 十代



布敷

夢太  
 襖  
 二柳  
 青蓮  
 児董  
 團圓  
 夢太  
 蕪村  
 為重  
 諷竹  
 千代  
 希周  
 支考

行

舞

牡丹

野明  
 鞭石  
 葉文  
 海棠  
 汶村  
 嵐雪  
 釣臺  
 風園  
 蕪村  
 青蘿  
 千代  
 大江  
 梅  
 大元

書業

麦 いくさのきりぬけれた 支考

わがふはきりぬけれた 木導

けりぬけはたれた 青蓮

けりぬけはたれた 二柳

けりぬけはたれた 臥夫

麦 夏秋のきりぬけれた 占徳

けりぬけはたれた 玄米

けりぬけはたれた 時堂

けりぬけはたれた 蘭夷

麦 夏秋のきりぬけれた 風騰

けりぬけはたれた 蕪村

けりぬけはたれた 千代

麦 夏秋のきりぬけれた 遊方

けりぬけはたれた 大村

麦 夏秋のきりぬけれた 野坡

けりぬけはたれた 風喬

けりぬけはたれた 瓢水

麦 夏秋のきりぬけれた 也有

けりぬけはたれた 紅雪

けりぬけはたれた 鬼貫

けりぬけはたれた 嵐竹

けりぬけはたれた 蕪村

麦 夏秋のきりぬけれた 蘭更

けりぬけはたれた 白尾

麦 夏秋のきりぬけれた 土音

けりぬけはたれた 呂九

けりぬけはたれた 几董

けりぬけはたれた 時堂



ぬい夏もすしーし中の内 正木  
 菊並に故帳冷しる夕ぬ 好春  
 世あいにふ公のけしう故帳の中 謙山  
 宵ぬしと持入故帳のつりぬ 其角  
 寝いどしる故帳のぬぬぬ 直生  
 不ちくとその音きう故帳 李東  
 夕のぬむせしては深く故帳 希因  
 鴉の孫つぬ宿のふやうれ 几董  
 夕のぬのつふふさるるもりお 竹阿  
 故帳や東のたれぬぬぬ 曉臺  
 雨桂 ぬぬぬぬぬぬぬ 芭蕉  
 いしつとぬぬぬぬぬぬ 都雀  
 暮 ぬぬぬぬぬぬぬぬ 曲翠  
 新茶 ぬぬぬぬぬぬぬぬ 支考

山とともむし新茶の風つる 雪齋  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬ 園女  
 初茶 ぬぬぬぬぬぬぬぬ 吉沖  
 花のぬぬぬぬぬぬぬぬ 昨裏  
 初風 ぬぬぬぬぬぬぬぬ 知誰  
 結 ぬぬぬぬぬぬぬぬ 宗瑞  
 めぬぬぬぬぬぬぬぬ 青雅  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ 芭蕉  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ 岩翁  
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ 大江丸  
 卯ぬぬぬぬぬぬぬぬ 二柳

五月  
 青 ぬぬぬぬぬぬぬぬ 渭川

かくるが風風の責る五月廿京 凡兆  
 五日まてあはれなるちやち京 桃隣  
 ちかの五條と通る帯白京 乙由  
 あやち州茶河の影京 木枝  
 山風の系京 希因  
 吉田鶴のま京 言水  
 うつくし京 萬三  
 勢京 清流  
 葛藤京 桃隣  
 我京 李吟  
 葛藤京 乙由  
 葛藤京 荷弓  
 我京 諸九  
 持京 圓里

雑

競馬

競馬 疾うよみ又まうく京 几蓮  
 竹解日 竹京 曉暈  
 葛藤 比又人京 拙負  
 岸 岸京 千代  
 岸 岸京 希因  
 岸 岸京 加生  
 岸 岸京 旭光  
 岸 岸京 几蓮  
 川骨 川骨京 芦角  
 川骨 川骨京 隨友  
 川骨 川骨京 素堂

尚白 引不しふはれをーとぬまが  
 乙由 隠れやうきまきぬれぬ  
 馬印 若の花松とほくしれ木が都  
 山店 たおふぬまのうらわ長の子  
 千代 ちかぬてふのふかぬれぬ  
 文雅 赤とどほーいふーまぬぬ  
 大江宛 笑つてきこ短うけのまが  
 此原 己うぬーまきませて後ーも  
 芭蕉 いらさめやけぬぬのぬぬ  
 嵐雪 あちこぬぬ五番ふぬぬ  
 東志 茶場ぬや給してぬぬぬぬ  
 希因 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 旭芳 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

夏

千那 ちんや銀ははくぬぬぬぬぬ  
 支考 こしぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 素繪 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 斜筆 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 朱迪 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 史部 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 配力 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 鬼貫 茶提軒 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 此筋 蘭のむよひいしぬぬぬぬぬ  
 杜宇 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 藤村 砂川やぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 蝶夢 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 大醫 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 重頼 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

なまこいふ萩あうてつる萩部 可産

萩のいふ萩部 布舟

萩の折る青ひくふ萩部 漢文

萩の匠ひぬれを萩部 揮毫

萩の白り愛の心を萩部 支考

萩のやまの日のうらなを萩部 千代

萩の舟よまのうらなを萩部 風圖

萩の根を萩部 権良

萩の舟よまのうらなを萩部 大元

萩の舟よまのうらなを萩部 杜祖

萩の舟よまのうらなを萩部 林繁

萩の舟よまのうらなを萩部 芭蕉

萩の舟よまのうらなを萩部 乙由

萩の舟よまのうらなを萩部 支考

揚子もろくやうの舟 乙由

なまこいふ萩あうてつる萩部 春桐

一枝いもらひこころを萩部 蓼冬

志くらえのうらなを萩部 重厚

香よ門つれりうらなを萩部 梅實

萩の舟よまのうらなを萩部 乙由

萩の舟よまのうらなを萩部 支考

萩の舟よまのうらなを萩部 支考

萩の舟よまのうらなを萩部 支考

萩の舟よまのうらなを萩部 支考

萩の舟よまのうらなを萩部 支考

萩の舟よまのうらなを萩部 支考

萩の舟よまのうらなを萩部 支考

萩の舟よまのうらなを萩部 支考

萩の舟よまのうらなを萩部 支考

田種 次の田種は... 昔文

田種 田種... 千代

早女 早女... 釣臺

早女 早女... 希因

早苗 早苗... 三止

早苗 早苗... 泥足

田種 田種... 蓼太

青田 青田... 此葉

青田 青田... 千山

青田 青田... 窓巴

青田 青田... 無倫

青田 青田... 露川

青田 青田... 支考

青田 青田... 田種

青田 湖松... 園七

青田 湖松... 如山

青田 湖松... 文章

青田 湖松... 卓袋

青田 湖松... 蕪荷

青田 湖松... 希因

青田 湖松... 蓼太

青田 湖松... 五明

青田 湖松... 市替

青田 湖松... 芭蕉

青田 湖松... 窓巴

青田 湖松... 野明

青田 湖松... 浪化

青田 湖松... 浪化



梅雨

白路のやまもかきぬ梅雨の中ナカ 不玉

かきぬ梅雨のやまもかきぬキヌ 都友

氷筋

ぬる風をききぬ氷筋のやまもかきぬキヌ 弘氏

かきぬ氷筋のやまもかきぬキヌ 北枝

かきぬ氷筋のやまもかきぬキヌ 伯之

かきぬ氷筋のやまもかきぬキヌ 蘭更

かきぬ氷筋のやまもかきぬキヌ 青羅

老翁

老翁のやまもかきぬ梅雨の中ナカ 溜川

書舎

書舎のやまもかきぬ梅雨の中ナカ 鬼貫

羽振

羽振のやまもかきぬ梅雨の中ナカ 一亀

池津

池津のやまもかきぬ梅雨の中ナカ 圃更

かきぬ池津のやまもかきぬキヌ 嘯山

かきぬ池津のやまもかきぬキヌ 窓巴

行山

行山のやまもかきぬ梅雨の中ナカ 行山

いせをばや梅のすむむ梅の風もかきぬキヌ 馬佛

いせをばや梅のすむむ梅の風もかきぬキヌ 栗山

いせをばや梅のすむむ梅の風もかきぬキヌ 云果

梅舞

梅舞のやまもかきぬ梅雨の中ナカ 史明

梅舞のやまもかきぬ梅雨の中ナカ 曉臺

螢

螢のやまもかきぬ梅雨の中ナカ 芭蕉

螢のやまもかきぬ梅雨の中ナカ 蘭子

螢のやまもかきぬ梅雨の中ナカ 野徑

螢のやまもかきぬ梅雨の中ナカ 萬宇

螢のやまもかきぬ梅雨の中ナカ 芦本

螢のやまもかきぬ梅雨の中ナカ 青峨

螢のやまもかきぬ梅雨の中ナカ 大草

螢のやまもかきぬ梅雨の中ナカ 正秀

螢のやまもかきぬ梅雨の中ナカ 也

花入てし翁たねとこぞいれ 袁望

道へ入るはらりかきもるき 大江

月のあつたおのつる言ふ 青蓮

花がさうこうくうに雲が 大江

さのちよんおんこ孫とを端年 支考

鳩を打より一角の毛をしり 蕪村

三日月の指をさしきりより 几董

たのしみさう角にさかへ鳩半 曉臺

てくれいやははせのうと貝 重厚

子さふらうてんをう寺未 大宛

枕のふささくはれもあ毛虫 蓼太

結ささ毛虫の居る敷の上 西吟

吾の長わりの世や又ひう 百明

花きさぬく春のさうひ計 河

壘

子

毛虫

花

花さくくふのさとを花さく 曉臺

ろうろうやう上のはのふれり 蕪村

夏虫 夏のはやんひうふれねえ 牧童

そと度た月よこして夏れ虫 方廣

火取虫 いませもふれややう虫 野風

海福 かいふちやう流の物さうさ 其角

かいふちやう風土さう門さうり 劇更

かいふちやう月のたつたさうさ 曉臺

眼射 ちやうばさうさうのさうり 嵐雪

火車 火車のまの戦さうさうり 太抵

火車 痛やうす傍のたつた火車 十州

火車 火車さうさうのさうり 谷縣

麻子 麻子のちと花さくさうり 桃隣

芥の青さうれいれはす麻子 紫暁

あつちのついでに... 羅城 五明

六月

六月廿一日... 芭蕉

六月廿二日... 鬼貫

六月廿三日... 虚谷

六月廿四日... 蓼太

水音... 芭蕉

氷室... 言水

水... 二柙

氷水... 大江丸

一夜酒... 盤水

高情... 沾湖

世尊... 美村

亦按... 曉臺

多福... 三圃

龍集... 蕪村

風美... 言水

青嵐... 窓巴

村... 史邦

重厚

庸

後... 去来

主

湖の風... 羅城

暑

班猪の... 大元

暑

不... 枝風

暑

猿... 時中

暑

台... 冰谷

暑

果... 遲望

暑

村... 素堂

暑

二... 其用

暑

涼... 許六

暑

涼... 許六

暑

涼... 許六

暑

涼... 許六

暑

涼... 許六

暑

涼... 夢太

月... 也育

涼... 千代

川... 芭蕉

ぬ... 文冊

新... 蘭子

可... 去来

ま... 宗次

本... 一珍

ま... 園女

能... 其角

い... 幸下

文... 前陣

ク... 乙由

有

園女  
 山店  
 昌房  
 蛙足  
 蘭舟  
 轉風  
 利牛  
 李由  
 徐宙  
 馬印  
 白仙  
 雲風  
 宗比  
 蓼太

水

泉

千代  
 蕪村  
 儿董  
 方廣  
 芭蕉  
 也右  
 許六  
 鬼貫  
 八橋  
 路徑  
 范亭  
 史松  
 去来  
 馬印

暮

暮のたかきよしのしらぬ月の 諸元

芒種てきつひのせせきや夏の月 園更

あつたつたのあつたつたの月 園更

夏の月いせけしののれいし 大江元

扇

言ふつたやんせいの風のりり 良品

熱い扇くくくくくくくく 杉風

おあつたのあつたあつたあつた 児童

伝はくつたのあつたあつたあつた 大江元

園庭

くたつたあつたの青やあつたの門 太抵

日の影と押さえておさるあつた 園更

まの秋とあつたあつたあつたあつた 涼苑

進子

けい高きあつたあつたあつたあつた 杜若

行

けい高きあつたあつたあつたあつた 諸元

行松

あつたあつたあつたあつたあつた 嵐

抱翁

あつたあつたあつたあつたあつた 一乳

抱翁やあつたあつたあつたあつた 也有

竹燧

あつたあつたあつたあつたあつた 希因

簞

あつたあつたあつたあつたあつた 無村

草

あつたあつたあつたあつたあつた

水碓

あつたあつたあつたあつたあつた

石太

あつたあつたあつたあつたあつた 其角

風蘭

あつたあつたあつたあつたあつた 進歩

蓮

あつたあつたあつたあつたあつた 玄梅

あつたあつたあつたあつたあつた 辛風

あつたあつたあつたあつたあつた 白函

あつたあつたあつたあつたあつた 曉臺

あつたあつたあつたあつたあつた 大魯

花いづれつそと月のまらぬ 閑更

蒲種 着けやふ休のぬい 可圓

夕氣 夕をれ 夕の 九兆

乙由 夕の 乙の 乙の

乙由 夕の 乙の 乙の

乙由 夕の 乙の 乙の

乙由 夕の 乙の 乙の

乙由 夕の 乙の 乙の

乙由 夕の 乙の 乙の

乙由 夕の 乙の 乙の

乙由 夕の 乙の 乙の

乙由 夕の 乙の 乙の

乙由 夕の 乙の 乙の

乙由 夕の 乙の 乙の

乙由 夕の 乙の 乙の

乙由 夕の 乙の 乙の

乙由 夕の 乙の 乙の

乙由 夕の 乙の 乙の

乙由 夕の 乙の 乙の

乙由 夕の 乙の 乙の

乙由 夕の 乙の 乙の

乙由 夕の 乙の 乙の

乙由 夕の 乙の 乙の

乙由 夕の 乙の 乙の

乙由 夕の 乙の 乙の

乙由 夕の 乙の 乙の

乙由 夕の 乙の 乙の

乙由 夕の 乙の 乙の

乙由 夕の 乙の 乙の

乙由 夕の 乙の 乙の

乙由 夕の 乙の 乙の

乙由 夕の 乙の 乙の

乙由 夕の 乙の 乙の

乙由 夕の 乙の 乙の

乙由 夕の 乙の 乙の

閑更

可圓

九兆

乙由

乙由

乙由

乙由

乙由

乙由

乙由

乙由

乙由

乙由

乙由

乙由

乙由

乙由

乙由

乙由

乙由

乙由

乙由

乙由

乙由

乙由

乙由

乙由

乙由

乙由

乙由

乙由

乙由

乙由

乙由

乙由

坂の青のしづか風のしらべ 紅石  
 並松や二つら風はのこり 孤山  
 山風の吹きまわりの松のまき 空芽  
 相の本のまわりの松のまき 萩人  
 とのの葉のまわりの松のまき 呂物  
 松風のまわりの松のまき 千代  
 川うらや骨かきつくと縁し 杜若  
 扱られてもらね命も葉の松 此筋  
 と月や細い道とむねの松 從吉  
 いちやとくともよ松のたけ 二柳  
 秋より苗代松の松のたけ 紋村  
 秋と松のまき松のまき 除風

川橋

秋道

秋  
七月

ひろくと木葉動く秋と立 鬼貫  
 秋と松のまき松のまき 浪化  
 秋と松のまき松のまき 北枝  
 まき松のまき松のまき 角上  
 竹子の風とつらやけこの松 尚白  
 ひかりしこま松のまき松のまき 也有  
 松のまき松のまき松のまき 二柳  
 松のまき松のまき松のまき 儿董  
 松のまき松のまき松のまき 大兄  
 松のまき松のまき松のまき 書齋  
 松のまき松のまき松のまき 夢太  
 松のまき松のまき松のまき 踏健

秋



秋の夜はまじりつる雨 毛執

秋の夜はまじりつる雨 米麴

秋の夜はまじりつる雨 二瓶

秋の夜はまじりつる雨 松丸

七夕 七夕やすすきもさる川の流 鏡花

七夕やすすきもさる 荊口

七夕やすすきもさる 嵐雪

七夕やすすきもさる 速雅

里庄 せうんていにはまじりつる 燕下

酒のつとねと酒の心早直 去来

早合 世のつとねと酒の心早直 青蘿

早合 早合のそとにちをいれり 涼菟

早合のそとにちをいれり 几董

藩への救由りつて早合 園女

枕流 七夕や机の口まじりつる 吉女

鶴橋 鶴橋や玉梅の口まじりつる 大江丸

天の川 横とぬまのつとねと酒の心早直 此筋

大切なつとねと酒の心早直 其角

天の川つとねと酒の心早直 團更

月うけつとねと酒の心早直 珈京

盆月 盆のつとねと酒の心早直 卓袋

盆月 盆のつとねと酒の心早直 野坡

盆月 盆のつとねと酒の心早直 青雅

盆月 盆のつとねと酒の心早直 夕七

盆月 盆のつとねと酒の心早直 團更

盆月 盆のつとねと酒の心早直 乙由

盆月 盆のつとねと酒の心早直 卓袋

盆月 盆のつとねと酒の心早直 泥足

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城

野城



秋雨

秋風や巻くふくろくもける 唯臺

秋の白雲はまじりし湯島

秋の白雲の屋のさうらうらう 孤衾

菜鳥の一匹ひや秋のちり 李由

産

秋つちや飽のうらみ笑しく 吹峰

白雲のあつちのうらみ笑しく 児圭

白雲のあつちのうらみ笑しく 蕪村

大粒のうらみ笑しく 青蘿

我らも秋のうらみ笑しく 大紅丸

香

流石の井ふや香のひびく 北枝

香うらな中のちりや味の松 卓夫

秋風やあはれ入るれ中 團更

秋風やあはれ入るれ中 毛純

雅妻

秋風やあはれ入るれ中 嵐貴

橋つちのうらみ笑しく 大算

秋風やあはれ入るれ中 洞梨

秋風やあはれ入るれ中 曹田

秋風やあはれ入るれ中 一露

秋風やあはれ入るれ中 全羅

秋風やあはれ入るれ中 史邦

秋風やあはれ入るれ中 千代

秋風やあはれ入るれ中 吾仲

秋風やあはれ入るれ中 挑妖

秋風やあはれ入るれ中 芭蕉

秋風やあはれ入るれ中 涼菴

秋風やあはれ入るれ中 馬耳

秋風やあはれ入るれ中 安永

秋風やあはれ入るれ中 野重



野菊

常不したるてまゝのむ 風國

ゆく左の野菊のむくい 柳妻

たらしらる人どまふ 杜宇

萩

まのれや二花の瓶ふ萩のむ 專明

水のうやま鴨の歌く 園更

白萩やいとしひのむ 青羅

あやふふついでまは萩 鬼貫

萩垣のむかきまのむ 黄唇

萩

風の音萩をこゝろに 大江元

萩を海へふ入れて萩のこゝろ 斗入

萩のむかきまのむ萩のこゝろ 蓼太

萩

あはれまのむ萩のこゝろ 巨蕉

萩のむかきまのむ萩のこゝろ 休計

萩のむかきまのむ萩のこゝろ 鬼貫

月夜まゝかありてまゝのむ 希因

まゝのむかきまのむ萩のこゝろ 二柳

夕雲とまゝのむ萩のこゝろ 曉臺

あはれまのむ萩のこゝろ 几董

一のこゝろまのむ萩のこゝろ 園更

萩

あはれまのむ萩のこゝろ 盛弘

萩のむかきまのむ萩のこゝろ 萬子

萩

萩のむかきまのむ萩のこゝろ 青羅

夕雲まのむ萩のこゝろ 祐昌

萩

萩のむかきまのむ萩のこゝろ 乙由

萩のむかきまのむ萩のこゝろ 素覽

萩のむかきまのむ萩のこゝろ 泊船

萩のむかきまのむ萩のこゝろ 水谷

萩のむかきまのむ萩のこゝろ 仙

種葉 若く代はくくしめらるる部一矣

稀花 果ともさのさつひつひつを 游方

のひつひつをさかやいひつひつを 露川

早稲 早稲のまや中中のるのくさ入 曲翠

又稲刈や露の因ふら二番年 露川

又くちちつと稲たちのひつひつを 松鶴

子稲のまや露をさつひつひつを 支考

りんや門田の早稲と稲つひつひつを 之道

養幸 窮ひは極あはせりりるるし 史邦

やうたの杖やさつひつひつを 支考

露ま 露まや乃うけおてひつひつを 呂曉

まよそのまよひつひつを 蘭更

風仙 露のひ眼のやまや風仙 井雨

西凡 猪の鼻くすつひつひつを 西凡

齒のぬのをさよいや一尺西凡 梨旭

草蓋 草下よつけてまよひつひつを 露川

草 草いひくやぬよ乃をさつひつひつを 山川

又のさつひつひつを 大江丸

一葉 相の葉はあても下よ度る 鬼貫

なつひつひつを一葉のちやねの上 有収

暎のまよひつひつを 蓼太

大の折 又ほくあつて折のまよひつひつを 芭蕉

柳ちつひつひつを 土芳

まよひつひつを 壺中

まよひつひつを 大江丸

木槿 せんろよまてくしに木槿 知足

又後、作向くあつひつひつを 乙由

又のまよひつひつを 時望

二日月の用よむいふる本權并 希因  
 灯のよまもふいふ枝の山 蕪業  
 赤輝のしんらもあまのさ 壺中  
 土の音あはらひて流るる中 園女  
 うららかにあはれまの虫 文鳥  
 月清てまはらひのさもあ 圃更  
 雲のよもあはれまのさ 青蘿  
 空のよもあはれまのさ 夫竹  
 蒼声のよもあはれまのさ 乙由  
 雲鶴あはれまのさ 雲鶴  
 音のよもあはれまのさ 感字  
 程存あはれまのさ 荻人  
 のあはれまのさ 除風

今もいふ命あはれまのさ 蓑太  
 居風あはれまのさ 希因  
 音のよもあはれまのさ 二柳  
 軍あはれまのさ 青羅  
 後あはれまのさ 木栗  
 後あはれまのさ 千代  
 陣のよもあはれまのさ 孤屋  
 陣のよもあはれまのさ 羅城  
 陣のよもあはれまのさ 惟然  
 陣のよもあはれまのさ 諸九  
 陣のよもあはれまのさ 圃更  
 陣のよもあはれまのさ 車来  
 陣のよもあはれまのさ 桃咲  
 陣のよもあはれまのさ 雪芝



鈴子も雨も千種ののびるひ 二軒

鈴子の雨も千種ののびるひ 曉臺

鈴子の雨も千種ののびるひ 千明

鈴子の雨も千種ののびるひ 四膳

鈴子の雨も千種ののびるひ 色薫

鈴子の雨も千種ののびるひ 仙水

鈴子の雨も千種ののびるひ 野徑

鈴子の雨も千種ののびるひ 其由

鈴子の雨も千種ののびるひ 麦光

鈴子の雨も千種ののびるひ 野往

鈴子の雨も千種ののびるひ 渡舟

鈴子の雨も千種ののびるひ 曉臺

鈴子の雨も千種ののびるひ 青羅

鈴子の雨も千種ののびるひ 支考

暖冷 酒のまよふはねとんがの足元 古帆

湘 湘や色もしるかり 墨の如 蝶夢

秋 楓や持てきてまらうらな こと

秋 秋の氣のまよふのころ 示蜂

秋 秋の氣のまよふのころ 青羅

秋 秋の氣のまよふのころ 曉臺

八月

八朔 八朔の初るぬますか 許六

八朔 八朔の初るぬますか 祐昌

八朔 八朔の初るぬますか 白雄

八朔 八朔の初るぬますか 木導

敬亭

山花や 義孝ついでて 敬亭舎 乙  
敬亭舎花は 井に 花も たり 洋丸

駒匠

駒匠の 入道 舟より たり 義孝 正秀

駒矢

系道 駒矢の 舟より 浪化  
いく 駒の 舟より 舟の 海 太祇

待月

待月の 舟より 舟より 正秀  
待月の 舟より 舟より 希因

待月

待月の 舟より 舟より 原松  
待月の 舟より 舟より 二柳

待月

待月の 舟より 舟より 如元  
待月の 舟より 舟より 潮春

待月

待月の 舟より 舟より 木枝  
待月の 舟より 舟より 芦角

待月

待月の 舟より 舟より 言水

名月や 舟より 舟より 去来

名月や 舟より 舟より 芦本

名月や 舟より 舟より 雨卷

名月や 舟より 舟より 乙由

名月や 舟より 舟より 雨盛

名月や 舟より 舟より 園女

名月や 舟より 舟より 忍風

名月や 舟より 舟より 千代

名月や 舟より 舟より 嵐雪

名月や 舟より 舟より 嵐雪

名月や 舟より 舟より 青蓮

名月や 舟より 舟より 土芳

名月や 舟より 舟より 守武

名月や 舟より 舟より 守武

月をかねてある方け遊ひし 酒紅

おぼしめし秋のまの月とよみ 几董

月見 燈しふとる影の月とよみ 洞梨

寺のまはては月とよみ之邦 芭蕉

海雲のまは月とよみ之邦 正秀

新月 秋の月とよみふんこえ 舎羅

雨月 名月のまはとよみはほせき 十梅

家のお月の中とよみの音 来山

十夜 月とよみはゆきの風とよみ 千梅

いづれ月の別とよみは 宇鹿

十の夜や言ふ月とよみの雪 儿董

三首 二日月やまの橋の袖のまはりの 十丈

秋のちやまの葉とよみは 杉風

二日月やまの葉とよみは 桃隣

月 蜀黍の葉とよみは 曉蓬

井ののけりし月とよみは 仙行

擬の本のまのまの月とよみは 鬼貫

そのまのまのまのまの月とよみは 元昌

いづれまのまのまの月とよみは 春水

香焚て我とよみは月とよみは 海棠

月とよみは月とよみは 近之

秋のまのまのまのまの月とよみは 青蘿

風とよみは月とよみは 晴臺

あつとよみは月とよみは 土芳

村のまのまのまのまの月とよみは 大江丸

まのまのまのまのまの月とよみは 尚白

秋のまのまのまのまの月とよみは 斗入

あつとよみはまのまのまの月とよみは 露川

無一ふふものもこれの月おき 松兄  
 徳の縁よりいへるや 霞の月 去来  
 月代や雀こころつく 寂の中 田原  
 世にまきつらんよりひびく 是月おき 雨聴  
 初夜 お汐やそよ風のくさして 夢水  
 秋暮 死もせぬ旅原のそよ風の 芭蕉  
 源まに清う鳴てし 秋のくれ 乙由  
 夫とせしる 遠ひくら 秋のくれ 角上  
 ものつてぬ人そらう 秋のくれ 乙由  
 秋ぬまえせと 秋の秋のくれ 雲鼓  
 秋のくれ 後のもよも 廿日 千梅  
 秋のくれ 海られまにん 秋のくれ 野坡  
 日あつらや 秋のくれ 秋のくれ 正秀  
 伴さく 巫女は 秋のくれ 言水

夕ぐれは 障とカヤ 寺のあはれ 風國  
 竹まきく 家そと 火のくれ 秋のくれ 几蓮  
 柱まは 心もよ 秋のくれ 青羅  
 扇風 扇小味つく 秋のくれ 水魚  
 夜きき 簾つた ぬち 秋のくれ 正秀  
 ひろと 秋のくれ 秋のくれ 支考  
 秋のくれ 秋のくれ 秋のくれ 秋色  
 旅人と 橋本よ 秋のくれ 大州  
 おとこ 秋のくれ 秋のくれ 青羅  
 秋のくれ 秋のくれ 秋のくれ 也有  
 木花よ 秋のくれ 秋のくれ 風麦  
 秋のくれ 秋のくれ 秋のくれ 鬼貫  
 秋のくれ 秋のくれ 秋のくれ 由仙  
 夕ぐれ 秋のくれ 秋のくれ 大州

乱

うづもて乱をたぬの柱うれ

園更

雨

やまの木のむも梢の神

風國

秋

やまの早稲のひつらのま

野重

永

秋の枝やまのりれこま

松泊

永

木のまぬおも氷の様けし

北枝

乱

雲の葉のさうりてのたれ

塵生

乱

風の葉のさうりなる暴風

向空

乱

秋風の松とむさるれれ

秋航

乱

ほろりてのたれなるたれ

希因

乱

月とあけと鳥鳴れれ

也有

乱

雲南なるかたのたれ

青羅

乱

舟かやんで風のさうり流

燕村

乱

月とあけと鳥鳴れれ

山児



乱

まよとてうれさうり色

旭芳

乱

とせぬとておくれ雨のたれ

葵太

乱

おれはよのたれなるたれ

乙由

乱

このたれなるたれなるたれ

蒲道

乱

鶴のたれなるたれなるたれ

青羅

乱

まよとてうれさうり色

土方

乱

さうりなるたれなるたれ

知白

乱

まよとてうれさうり色

可董

乱

おれはよのたれなるたれ

牧童

乱

おれはよのたれなるたれ

曉臺

乱

おれはよのたれなるたれ

言水

乱

おれはよのたれなるたれ

二柳

乱

おれはよのたれなるたれ

大江丸

種

二つおく人の心の中をようとく生佛  
白くしむる者いふくへ 九兆

推

かしの戸をよも紫よも推られし 國本

鳥

市人の心もつれ天 凡 杜雲

舟

おしむくこの心ひー鳥凡 蓼太

馬

初て舟おらしてたぐいさの 千代

舟

舟中をうらして声くうり

舟

舟中や帆柱おんかり舟 渾望

舟

舟中てまはす所はそくたが 遥望

舟

舟一重志すててうらるる 乙由

舟

舟中お中よひらーの舟 大仲

舟

舟中よまえてさうーの丁 青羅

舟

舟中よられてたうーの後 曉臺

舟

舟中よらるる舟の心 尚白

舟

舟中よらるる舟の心 氷卷

舟

舟中よらるる舟の心 園更

舟

舟中よらるる舟の心 二柳

舟

舟中よらるる舟の心 色蕉

舟

舟中よらるる舟の心 也有

生佛

九兆

國本

杜雲

蓼太

千代

渾望

遥望

乙由

大仲

青羅

曉臺

尚白

氷卷

園更

二柳

色蕉

也有

曉臺

尚白

氷卷

園更

二柳

色蕉

也有

曉臺

蕪村

白芝

芭

芭



陽川  
 本導  
 月代  
 大丸  
 千代  
 雲口  
 野城  
 正秀  
 探芝  
 大宛  
 加泉  
 蕪村

也  
 馬印  
 陽和  
 大魯  
 希因  
 湖天  
 秋色  
 蕪村  
 魯江  
 蓼太  
 大虚  
 蕪村  
 乙由  
 孤屋



田刈

稲うけり振り振一山家井 馬印  
稲刈や付美まう形。秋まね 築技  
その刈のおもひのやうに田刈也

落植

落植いふ形。うねのふゆし 乙由  
落植拾ひ日らるるふゆし 蕪村

黍

黍のこも穀とて酒の釣家也 支考  
粟物のねくましくりた合也 空考

九月

九月 あつら九月日おや敷のり 氷魚  
さかの菊中稲の飯のりまね 才磨

九月おきくか枝を布白枝 待彼  
つらねいふもまをり人の菊 宇月

出代

出代かきまるとまかきつるのり 京 金毛

飛

はる不しの音句をきつてなと部 八来  
はるをた鼓うつく屋の力 其角

たちつら人のい葉まよる屋の力 千代  
紫桐まよるい葉まよる屋の力 佐角

秋三折くめ稲きて屋の力 杉風  
まよる人のい葉まよる屋の力 希因

すまよるい葉まよる屋の力 也有  
心葉まよるのまよる屋の力 蕪村

晴いふくめまよる屋の力 青蘿  
情あつた月のおまよる屋の力 正秀

外市 外市ふておまよる屋の力 浮風  
八合の月のおまよる屋の力 兩聽

牛家 一のいふまよる屋の力 蕪村  
市邊 市邊まよる屋の力 立吟

蘭

若木花の平らひ一ちたけむら 支那

白くもつた花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

水辺のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

蘭

青の毛松とらたけむら 龍世

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

花のつらふれむら 乙由

葛葉 本は介の... 作

松 不... 祐昌

本葉 孫ら... 李里

振美 本... 鬼貫

梨 本... 大江元

栗 古... 鬼貫

射江

青羅

牡羊

凡此

大抵

利牛

作

支考

白歌

支考

推 有... 沾徳

燕村

推葉 推葉の月... 二柳

未括 未括... 北枝

曉臺

今葉 今葉... 几童

大江元

古帆

綿 日... 富定

梅葉 梅葉... 京苑

後結 後結... 重額

後結 後結... 嵐雪

暖かな一階のつらなりの音 春坂

鞆引 引上げてふゆとていんごうか 白扇

あま うつくしき魚のほかにやうなふ 文柳

あま あまのうらみすきあつ下り月 稲丸

あま あまのうらみすきあつ下り月 七里

あま あまのうらみすきあつ下り月 志考

あま あまのうらみすきあつ下り月 千川

あま あまのうらみすきあつ下り月 柳七

あま あまのうらみすきあつ下り月 毛細

あま あまのうらみすきあつ下り月 青墨

あま あまのうらみすきあつ下り月 几重

あま あまのうらみすきあつ下り月 大曾

あま あまのうらみすきあつ下り月 千代

あま あまのうらみすきあつ下り月 雪芝

あま あまのうらみすきあつ下り月 幾重

あま あまのうらみすきあつ下り月 希因

あま あまのうらみすきあつ下り月 露川

あま あまのうらみすきあつ下り月 蕪村

あま あまのうらみすきあつ下り月 昌碧

あま あまのうらみすきあつ下り月 芭蕉

あま あまのうらみすきあつ下り月 乙由

あま あまのうらみすきあつ下り月 文章

あま あまのうらみすきあつ下り月 社年

あま あまのうらみすきあつ下り月 越人

あま あまのうらみすきあつ下り月 二柳

あま あまのうらみすきあつ下り月 大宛

冬

十月

初霜のしづかに清の虫のこゝろ雨 去来

秋の葉のやぶのまじりたる初霜 許六

故郷の山を越えし初霜のしづかに 野坂

はらわたの香のこぼれし初霜のしづかに 乙由

暮寒のつれなき初霜のしづかに 西谷

初霜のしづかに 諷行

をばてゆく初霜のしづかに 青蘿

みぞれのふりたる初霜のしづかに 淡々

傘程の曇りたる初霜のしづかに 蘭更

ゆき曇りたる初霜のしづかに 千代

降る初霜のしづかに 白雲

雨 降る初霜のしづかに

いそぐ舟の初霜のしづかに 去来

沙雪は初霜のしづかに 李由

暖のこゝろ初霜のしづかに 木因

年々のこゝろ初霜のしづかに 浪化

只くは初霜のしづかに 野坂

木葉のぬる初霜のしづかに 乙由

池の底の初霜のしづかに 北枝

竹の葉の初霜のしづかに 野坂

食肉の初霜のしづかに 去来

朴の木の枝の初霜のしづかに 宇藤

初霜のしづかに 三岐

炭の初霜のしづかに 知外

鏡の初霜のしづかに 水因

初霜のしづかに 青蘿

何事かよふか音と村うれ 歳入  
 是處も取らるる所や心路部 空考  
 ひかへし心路の事も取らぬ也 壺中  
 昔も取らるる所や心路の事と 朱拙  
 押あつて相いもの事と心路 野坡  
 十月の心路の事と心路の事と 懸草  
 十月の人と心路の事と心路の事と 五明  
 十月の心路の事と心路の事と 甫尺  
 十月の心路の事と心路の事と 千梅  
 十月の心路の事と心路の事と 蓼太  
 十月の心路の事と心路の事と 鬼貫  
 十月の心路の事と心路の事と 李由  
 十月の心路の事と心路の事と 涼節  
 十月の心路の事と心路の事と 非送

十月の心路の事と心路の事と 鬼貫  
 十月の心路の事と心路の事と 李由  
 十月の心路の事と心路の事と 涼節  
 十月の心路の事と心路の事と 非送  
 十月の心路の事と心路の事と 木枝  
 十月の心路の事と心路の事と 除風  
 十月の心路の事と心路の事と 徐寅  
 十月の心路の事と心路の事と 太徳  
 十月の心路の事と心路の事と 白雄  
 十月の心路の事と心路の事と 二柳  
 十月の心路の事と心路の事と 大江丸  
 十月の心路の事と心路の事と 大魯  
 十月の心路の事と心路の事と 芭蕉  
 十月の心路の事と心路の事と 史邦  
 十月の心路の事と心路の事と 奚魚  
 十月の心路の事と心路の事と 儿董  
 十月の心路の事と心路の事と 乙由

下京のくさくさのこも十枚井 許六  
 伏火の鴨居のひくく十枚井 岱水  
 白く内の障へひくく十枚井 千梅  
 居風呂とふるまはれる十枚井 史邦  
 蓮化のまもつゝひの十枚井 涼備  
 郭ののこおろし十枚井 也有  
 あまごうと家もたふくく十枚井 蕪村  
 あはれふくくくくくくくく 芭蕉  
 玉愛百人あそぶくくくく 山庄  
 けくく内裏のあま二枚井 嵐竹  
 けくくくくくくくくくく 史邦  
 けくくくくくくくくくく 去来  
 けくくくくくくくくくく 杜若  
 けくくくくくくくくくく 曉臺

座敷

まは

御衣や紫冷ゆる後の路 色蕉  
 御しやうてつうく酒の箱 史邦  
 御しや食くこもる後けい 野坡  
 何物そくくくくくくくく 一枝  
 御衣やあひつれらるゝ 正秀  
 戸よこりくおの葉葉竹の門 横草  
 後衣やあひつれらるゝ 路通  
 ひくくくくくくくくくく 惟然  
 けくくくくくくくくくく 芭蕉  
 有めくくくくくくくくく 騏道  
 あまのくくくくくくくく 馬肝  
 あまの雀のくくくくくく 臥安  
 赤くくくくくくくくくく 剛更  
 せき道くくくくくくくく 大見

御衣

ま

風

ね枝のつらぬきおのひうらつれ 大江丸

あしほふあまけしねしき柱 利牛

風や天井くくぬ堂の内 杯紅

石板のあつり石やうら折 夫州

風や秋のさうさく鶴の声 雨邑

風よさよふりしきるにむお 乙由

風や井よかぐれてきつさる 色煮

風よ江の鮎ひらむ入江が 露沾

風や橋たさく海の香よん 四醉

風よしきふふさるや藤の角 元梅

風よいつさうさやも性 正秀

風のおめあられやるの陰 陽洲

風や筆よかしくつく時 蝶夢

おきもここの道つてまき子 蓬望

お雲

おんりのおきさうらん帯うら 氷巻

おきやえすくはれぬら 萬年

おきやひらうふおきおらにほ 蛙足

おきや人のさけんハおのうら 桃隣

おきや尾止の尻おつれまの 諸九

おきや雲よもねくて早月お 巴人

おきや松のぬし一うまえ 百春

おきやもねのうつくはまはけ 佐角

おきや小松よよくさうら 配力

おきや雲いふのこは菫相の 青藤

おきや雲まおせらりおきり 鳥明

おきや神くみおる橋 狂

おきや川の産うらおきりしお 燕下

おきや水さうらゆけにぬくお 氷巻

氷

水

おきや水さうらゆけにぬくお 氷巻



有明のそよぐ水も鹽つね 宇路  
 ありのまゝに水もや尻のう 柳雨  
 丸形草もく時くも花はつら 物丸  
 松竹も横まうくの山辺うね 来山  
 月 月(二月)うしねのまの元 可董  
 冬月 尾登の光澤あし冬の月 千梅  
 居風呂も高もつれはを月 露川  
 を月枝とともすの嵐 木尊  
 を月白く一豆腐ふ梅のむ 乙由  
 を月白く一豆腐ふ梅のむ 團更  
 破の石のそよぐ言ひ枝は 白柳  
 くら風の水面おぼてきく 序令  
 ありのらうしむううなを月 去来  
 ねのいぬぬいぬいぬのさ 路頭

寒

雪もたねやねよそよの雪の青 撰世  
 和後川の一條もつてきく 風國  
 ありのまゝ 宿直のけらる 菊口  
 小舞風も茶と扱くもさ 斜嶺  
 鴨の取もさ 振 亦 汶村  
 乃ちも唯ひくくもさ 麦光  
 葱白く洗ひよるもさ 芭蕉  
 葉も曲て卵も押ぬもさ 草離  
 くらねねはらうさかたのさ 白雄  
 をささねた指木の中の日ら 斗入  
 ふささたる鶴のと毛のさ 大江丸  
 晴るもは後推やなしを 和及  
 めねもやこいもさ 色蕉  
 鶴のまも本もねくも 諸九

七夜 嵐あらしもやてねねもくくんんをを其角

唇くちびるののままいいつつくくをを涼菫

ささららひひ橋はしくくててをを風律

唇くちびる眠ねむりりててをを蕪村

之この果はのの隣となりをを青蘆

をを千代

をを芭蕉

善切 口くち切ぎりり五ご山さん流りゅうるるをを蕪村

那な爾に 那な爾にややとと母ははのの白しろ 杜若

那な爾にやや後のちつつららりり我われをを古帆

皇み 蒼あお空ぞら白しろくくをを芭蕉

山やまののこころろ那なららままててをを大おほ江え

火か持もちせせいいとと人ひとをを二ふた柳

心こころのの里さとししてて火か燈と籠かご 風律

火かやや噴ふくくれれいい星ほし一ひとつつ 乙由

埋う火かやや後のちままりり来きるるおおのの浪なみ化

埋う火かややねねをを青蘆

史し 赤あかのの後のち後のちをを火か桶づく 芭蕉

白しろ川がわのの浪なみをを相あ火か桶づく 其角

赤あかのの後のちをを火か桶づくのの心こころ 存義

火か桶づく抱かかりりててをを臥ふ央おう

火か桶づくをを蕪村

史し 火か御ご 火か御ごやや火か持もちのの心こころ 壺中

陽やう 一ひと夜よ二ふた夜よ後のちははたたかかもももも 白雄

指さし 鶴つるやや指さしくく火かのの心こころ 酒堂



此の地ちよとすらんかゝるの 蕪村

蕪村 ぬくけいけいんかむよるおれ 苔

二柳 ちよとすらんかゝるの門の 二柳

千山 葉のむの中ちよとすらんかゝる 千山

去来 ぬかしのたしるあふちよとすらんかゝる 去来

浪化 葉を舟のちよとすらんかゝるの 浪化

涼鬼 葉のちよとすらんかゝるの 涼鬼

蕪村 葉のちよとすらんかゝるの 蕪村

曉臺 葉を舟のちよとすらんかゝるの 曉臺

牛坂 蕪のちよとすらんかゝるの 牛坂

木導 白木のちよとすらんかゝるの 木導

月尋 本木のちよとすらんかゝるの 月尋

逸漢 大木のちよとすらんかゝるの 逸漢

蕪村 ちよとすらんかゝるの 蕪村

大江丸 ず列て柳のちよとすらんかゝるの 大江丸

祐昌 本木のちよとすらんかゝるの 祐昌

樗良 此のちよとすらんかゝるの 樗良

石文 雨のちよとすらんかゝるの 石文

涼傘 ちよとすらんかゝるの 涼傘

團水 ちよとすらんかゝるの 團水

乙由 後ちよとすらんかゝるの 乙由

水仙 雲のちよとすらんかゝるの 水仙

李冠 ちよとすらんかゝるの 李冠

序令 ちよとすらんかゝるの 序令

野坡 ちよとすらんかゝるの 野坡

大江丸 ちよとすらんかゝるの 大江丸

蕪村 ちよとすらんかゝるの 蕪村

蕪村 ちよとすらんかゝるの 蕪村

蕪村

杜若

白圃

枯葉 児董

枯葉 千梅

枯葉 惟然

枯葉 窓巴

枯葉 杉風

枯葉 圃更

枯葉 曉臺

枯葉 斗入

枯葉 二柳

枯葉 圃更

枯葉 圃更

枯葉 圃更

枯葉 圃更

枯葉 扣雅

鳥打りや枯叶の音のこ 秋之坊

鶴の枕よりさういふの歌 康工

ほろりよ枯叶の影つて 乙由

梅葉の身はたよぬぬりの掛 其角

こころよ枯叶の影も 蓼太

ぬつろりと夕を方くの枯叶が 曉臺

ふと感ずるふりかたの枯叶が 蕪村

ふと感ずるふりかたの枯叶が 養浩

流石と云ふ句やつくれな 碧川

夕付日ぬらうてさうや 半茂

まき草や一畝のふむふ風 乙由

何れ風やふらふらと細代 何之

何れ風やふらふらと細代 何之

何れ風やふらふらと細代 何之

徳

枝のしるこする細代の無邪 曉臺

川つやき夜ぬく久細代も 其結

枝波のまねもこころ細代も 也有

孫えよ月くそまも細代も 牧童

水魚 月うけのくみけていよりの水魚 松笠

水魚 岸波の浪のこころおちき風多 我々

水魚 ありもとせらりらりいふおし 蕪村

ありもや砂ふくちり人のこころ 青蘿

ありも浪の鼻つくわつが 乙則

樹 海つよおちや望月の兼兼炊 千那

津坂つらりたねたまかろ樹 元灌

雪ふんくは提てくれは樹 杜若

村まきほりかよはよはしや 風律

おのわくおいられまももも 曉臺

まきくぬきまのちりや花並 儿董

村雨ふ音あまちつちりか 蕪村

くらり海さきくはまもも 門瑟

まねおふ身よらやうたつ樹 松尾

雨ちんてせらるるるもも 大江元

やらうふるふとつくや鶴の角 雪堂

けららとふつとてぬく鶴はき 芭蕉

野路ちりらうた田のまらあ 二柳

夕暮のほほほこはる月夜那 風律

花のよくやあつとて水 文里

花の花もろくとも春ひらり 曉臺

鶺鴒 海つりのあきくはちんたつ 吾仲

あまのよめおし水一後のま 歌扇

北枝

木や草や月も介し後 蝶夢  
 まさや雪のねせの松 鬼貫  
 海京や一際氷る雪の空 除風  
 雪のちけふも海ありしち 蜂房  
 雪のちけふもみはとよき 麦水  
 雪のちけふもみはとよき 尺素  
 雪のちけふもみはとよき 枝東  
 雪のちけふもみはとよき 許六  
 雪のちけふもみはとよき 二柳

十一月

雪のちけふもみはとよき 杉風  
 雪のちけふもみはとよき 矢野  
 雪のちけふもみはとよき 一乙由

お山の日和をせむるを正抄 石蘭  
 江波越て冬を玉の畑匂たり 蒼洲  
 雪のちけふもみはとよき 栗山  
 雪のちけふもみはとよき 桃園  
 雪のちけふもみはとよき 竹戸  
 雪のちけふもみはとよき 北枝  
 雪のちけふもみはとよき 児董  
 雪のちけふもみはとよき 其角  
 雪のちけふもみはとよき 子葉  
 雪のちけふもみはとよき 青流  
 雪のちけふもみはとよき 蓼太  
 雪のちけふもみはとよき 山店  
 雪のちけふもみはとよき 紫曉





雲火 月夜しづかに 秋之場

雲車 江戸も 萩元

雲 必く 平夾

雲 古く 史邦

雲 無の 夢天

雲 秋田の 昌房

雲 指の 正秀

雲 ありの 正秀

雲 ぬく 泥足

雲 陸の 友静

雲 陸の 白雄

雲 其の 曉臺

雲 人の 風國

雲 其の 也有

大根

大根引て 大根丸

葱 葱や 猿雄

葱 葱の 嘯山

葱 葱の 楠芽

葱 于菜の 髭風

葱 茶の 也有

葱 我の 蕪村

葱 枝の 蕪村

葱 貝の 蕪村

葱 縁の 芭蕉

葱 縁の 鬼貫

葱 人の 大祇

葱 後の 大祇

葱 縁の 蕪村

ふくむ竹材といたてく喰はる 希双

納豆 納豆とらとたれや味の言にし 丈艸

生海産 木の櫛のつらに思ふ生海産 乙由

あつてふくむるもの 燕村

あつてふくむるもの 二柳

乾鞋 乾鞋も宜也の履しきの中 芭蕉

ついでにこれたふしれもの 祐昌

から鞋と穿りくりや他つ 雪芝

絲 暖や絲の吼るまゝの海 曉臺

七浦の人とさうと絲とる 尺尺

板貝引 我ま三月板貝引て板貝引 工齋

十二月

雪 かくらるる雪の海のおつたり 世兼

世の中は揃う上のおをが 如行

赤くやれお角豆も市のおをが 正秀

甲子のゆをふくむる雀もれ 乙由

冬もぬものゆをの平睡部 萬海

冬もぬものゆをの平睡部 乙州

まれおのゆをのゆをの風部 青蘿

日ころの言ゆゆをの市のおを 二柳

さくりくと雲つゆをの風部 曉臺

磨膏 いろし小退るまると磨膏 白雄

彌八 彌八よゆの信たぬえたり 諸九

彌八やとておれつて信一人 蘭更

寒念仏 寒念仏も念佛同く信もあらん 康樂

父もぬく母もかたきと念仏 大紅丸

お念仏や氷もる証を信 諸九





小世日 湖まわりのしたのむとくろぬ世日 蝶夢  
大世日 鶴下るるをくらぐに大平月 其用

おつ 地月の極や大二十日 移竹

可し人あふふの一日の如 仙化

早 けしと木葉交りのくさる 沙明

けしと木葉交りのくさる 青蘿

けしと木葉交りのくさる 其用

けしと木葉交りのくさる 米約

けしと木葉交りのくさる 暁園

暮書 はしとあふふは後れたのれ 野坡

暮書 ねねといふらふ平にのれふらう 千代

から蛙の肩のぬけはくしのれ 梅景

居ぬつれは後やうにまはれ 櫻長

種落とさししつとせむせむが 牧童

松のけさかひあれくせられ 芭蕉

養ふりし日はおつらうとては考 斗入

手守 くらとちねおきさくくさるはく 蕪村

春景 大くちやねる像のこしとまひ 萬年

大平や新波極口の鴨の夢 春鏡

大阪 淺野高造筆

文化八年辛未  
八月吉日刻成

江戸書林

京都書林

西村源六

角丸屋甚助

須原茂兵衛

浦井徳右衛門

菊舎太兵衛

野田治兵衛

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

